

「道の駅」の概要と町が抱える課題

「道の駅」の概要と整備の目的

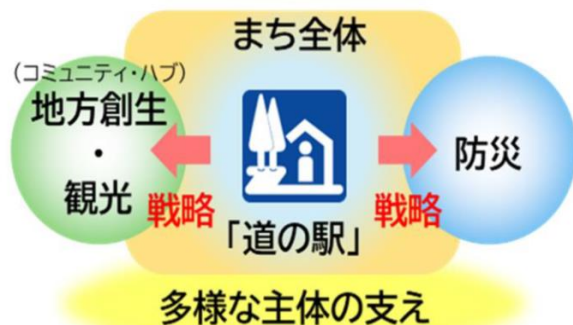
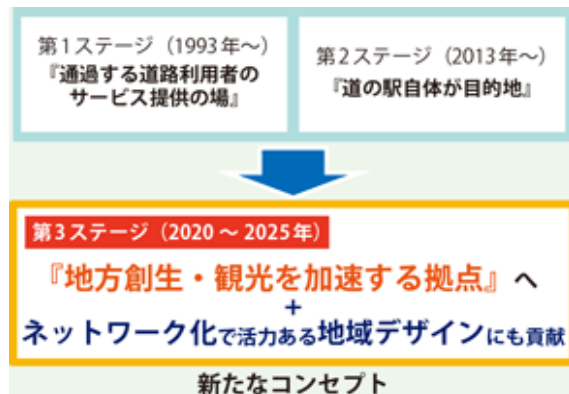
「道の駅」は、主に市町村が設置し、国土交通省が登録する道路休憩施設で、制度開始から30年以上が経過し、全国で1,200駅以上に拡大しています。当初の目的であった「通過する道路利用者のサービス提供」（第1ステージ）から、「道の駅自体が目的地となる拠点」（第2ステージ）を経て、現在は各「道の駅」における自由な発想により、観光や防災などさらなる地方創生に向けた取組や、民間企業等との連携による新たな魅力を持つ地域づくりに貢献するために「地方創生・観光を加速する拠点」（第3ステージ）へと進化しています。当町ではこの変遷を捉え、みのわテラスを単なる休憩施設ではなく、町全体と道の駅が一体となって発展できるようにコンセプトを設定し、整備事業を進めます。

「道の駅」の機能

休憩機能：24時間無料で利用可能な駐車場・トイレの提供

情報発信：道路、観光、緊急医療情報のリアルタイム提供

地域連携：産業振興、子育て、防災の要素を踏まえた地域活性化拠点



上位計画における位置づけと町が抱える課題

平成20年をピークに減少に転じた当町の人口は、高齢化率が急速に上昇し、税収減や担い手不足による経済活動の収縮が懸念されます。町では、第5次振興計画において「みんなで創る、未来につながる、暮らしやすい箕輪町」を将来像に定め、行政と町民が一体となって人口減少時代に挑戦する“箕輪チャレンジ”に取り組んでおり、具体的な目標として「①人口減少時代に即した暮らしへの転換」「②将来の暮らしやすさを守る人口規模の維持」を設定しています。

また、農業分野では、「農地が農地として使われ続ける環境を作る」ための一連の施策を「箕輪町農業応援団計画」として位置づけています。

こうした目標の達成に向けて、町では下記のような課題を抱えています。

①関係人口の確保・観光消費額の上昇

赤そばの里、もみじ湖等の集客（8～9万人）の流れを地域内周遊に結び付けられず、滞在時間の延長や交流人口・関係人口の創出につなげられていない。

②農業の担い手の確保・遊休農地対策

安定的な担い手の確保のための農産物の「大きな出口」の確保と、非農家による農地利用の推進。みのわテラス周辺農地との連携。

③子育て環境の整備、少子化・人口減少対策

子育て世代からニーズの高い、冬季や雨天時に小学生が遊べる屋内施設の不足。

④冬季間の来訪者確保

冬の寒さが厳しく、生産できる農産物に限りがあることや、野外アクティビティも困難であり、冬季間の来訪者が落ち込んでいる。

⑤災害時における拠点施設の確保

緊急避難場所としての機能強化と、各種支援活動の拠点となるスペースの不足。



リニューアル後のみのわテラス

「道の駅」が目指す姿と求められる機能

上位計画における戦略的価値

前述の上位計画を推進するうえで、豊かな農畜産物、美しい景観、観光資源など、この地域の多様な資源を活かした魅力的で持続可能な地域づくりを進めていきます。みのわテラスでは、農の体験等を通じて「農ある暮らし」の魅力を発信し、交流人口・関係人口の増加を目指します。

「道の駅」においては、本計画により機能を整備し、みのわテラスが地域の農業振興、魅力発信、子育て支援、シビックプライドの醸成など様々な要素を踏まえた新たな人の流れの創出に加えて、交流人口・関係人口を増加させていく先導的な役割を担う、地方創生の拠点となることを目指します。

基本理念・コンセプト

「箕輪町農業応援団計画」の中核的な存在であるみのわテラスには、農を通じた地域の活性化と持続可能な農業の未来を切り開く重要な役割が期待されており、具体的には消費者としての関わりを超えた3つのさらに深い機会を提供します。

また、県内の観光ルートのほぼ中央に位置することや、地方創生や防災の観点など、みのわテラスに期待される様々な役割を踏まえて、基本理念及びコンセプトを次のように設定します。

【基本理念】

「PLAY！ FARMING 農を遊び楽しむ暮らしの拠点」

【コンセプト】

- ・地域の「農」に触れる拠点
(農を手がける機会、農の魅力や楽しさを広める機会、農を次世代へつなぐ機会)
- ・多様な世代が訪れたいランドマーク
- ・伊那谷北部の玄関口となる道の駅
- ・防災拠点としての機能充実、強化

「道の駅」に求められる機能

基本理念及びコンセプトを踏まえながら、道の駅が持つべき3機能を整備または充実化させます。(新規整備または拡張・拡充するもの)

【情報発信機能】

道路交通情報・地域の観光情報等を発信する情報発信コーナー

【休憩機能】

駐車場の拡張、24時間利用可能なトイレ、ベビースペース、屋内休憩スペース

【地域連携機能】

農産物直売所の充実化、遊び場機能の充実(屋内遊戯施設の整備、緑地広場の拡張)、体験スペース

「道の駅」に求められる機能

| 課題 | 取組 |
|-------------------|---|
| ①関係人口の確保・観光消費額の上昇 | ・情報案内スペース及び屋内休憩スペースの整備による観光、産業のPRと地域内の周遊促進 ・体験スペースの整備、体験型コンテンツの充実化、交流菜園事業との連携による、観光客から関係人口への展開 |
| ②農の担い手の確保・遊休農地対策 | ・情報案内スペース及び屋内休憩スペースを活用した、農業を含む地域の産業PRによる理解促進 ・体験スペース及び屋内遊戯施設を活用した、地域の農に興味を持ち、理解が深まるような情報発信 ・周辺農地や菜園事業との連携 |
| ③子育て環境の整備・人口減少対策 | ・子育て世代のニーズをとらえた、屋内遊戯施設の整備及び緑地広場の拡張による、遊び場機能の充実化 ・体験スペースの整備及び体験型コンテンツの充実化による、年間を通じた魅力的なサービスの提供 |
| ④冬季間の来訪者確保 | ・屋内遊戯施設の整備による、冬季でも施設を訪れてもらうためのきっかけ作り ・体験スペースの整備及び体験型コンテンツの充実化 |
| ⑤災害時における拠点施設の確保 | ・災害時における情報提供を想定したデジタルサイネージの整備 ・駐車場の拡張による駐車台数の増加と、災害時の利用も想定した大型車区画のレイアウト作り ・災害時の利用も想定した24時間利用可能なトイレ、屋内休憩スペース、ベビーコーナー等の整備 |

整備内容と取組

導入する機能と整備・取組内容

基本理念及びコンセプトを踏まえながら、道の駅が持つ3機能（情報発信機能、休憩機能、地域連携機能）に加え、防災的視点も念頭に置いて施設整備を行います。

①情報発信機能

| | |
|-----|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> 町内及び周辺地域の観光情報のPRによる周遊促進 道路情報等の提供による道路利用者の利便性向上 |
| 整備等 | <ul style="list-style-type: none"> 情報案内スペースの整備とデジタルサイネージを使った町内及び周辺地域の観光PR強化 農業をはじめ、地域の産業PRの強化 デジタルサイネージを使い、道路交通情報や防災情報を24時間提供 |

②休憩機能

| | |
|-----|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> 利用者ニーズを捉えた駐車場拡張と大型車区画の整備、屋内休憩施設と24時間利用可能なトイレの整備 ベビーコーナーの整備による子育て応援機能の強化 |
| 整備等 | <ul style="list-style-type: none"> 南側駐車場の拡張(約2,100㎡、普通車約75台分)と南側町道からの進入路の確保、大型車区画の充実化 トイレの24時間化と多機能トイレの整備 ベビーコーナー(授乳室、おむつ交換台)の整備 屋内休憩スペースの整備 |

③地域連携機能

| | |
|-----|---|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> みのわテラスが目的地となるような施設の充実強化 地域の農産物の販売促進、農をテーマにした体験型コンテンツなど、地域にも観光客にも魅力的な複合施設 |
| 整備等 | <ul style="list-style-type: none"> 農産物加工所を改修し、製造機能と販売機能を強化 体験スペースの整備と体験型コンテンツの検討 遊び場機能を強化するため、緑地広場の拡張と屋内遊戯施設を整備 周辺の農地や町民菜園、交流菜園と連携した事業の検討 |

④防災機能

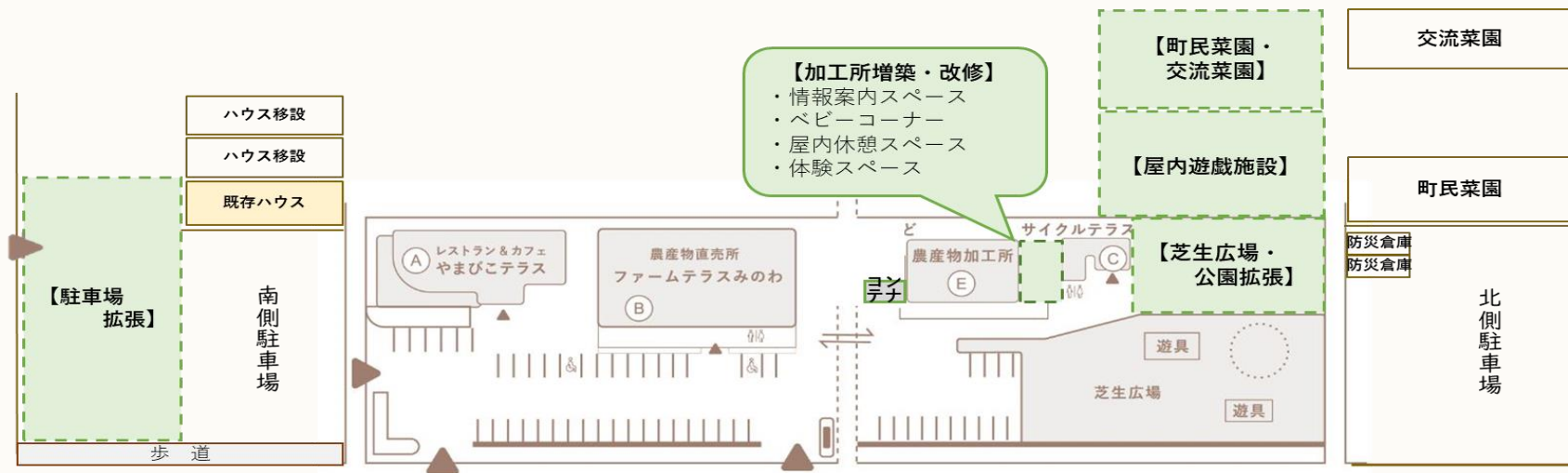
| | |
|-----|--|
| 目的 | <ul style="list-style-type: none"> 長野県の「異常豪雪時対応計画」に基づく大型車待機場所としての機能充実 緊急避難場所、車中避難場所、各種外部支援の拠点など、多様な用途での活用を想定 |
| 整備等 | <ul style="list-style-type: none"> 駐車場の拡張と大型車区画の充実化 災害時を想定した各種機能の整備(情報提供、トイレ、駐車場レイアウト) |



情報案内スペース (例)



ベビーコーナー (例)



屋内遊戯施設 (例)



屋内休憩スペース (例)

📅 整備スケジュールと達成すべき重要業績指標

整備スケジュール

現時点で予定しているスケジュールは、下記のとおりです。

R7

計画・基本設計

整備構想検討
整備基本計画策定
道の駅登録申請準備

R8

実施設計・建設

道の駅登録申請→登録認定
加工所増築・改修工事、道の駅機能整備
遊び場機能充実化事業の実施設計
駐車場拡張

R9

稼働・建設

道の駅としてオープン
屋内遊戯施設の整備
緑地広場の拡張整備

R10

安定・充実化

屋内遊戯施設オープン

重要業績評価指数（KPI）の推移と目標値

令和3年のリニューアル以降、リニューアル前（H30）と比較して一帯の客数は約2倍、売上は約2.8倍と大幅に増加しており、リニューアルの目的であった「地元農産物の大きな出口」や「にぎわいの場」として一定の成果を上げてきました。

今後、道の駅化による多様なニーズに供用するためのランドマークとしての集客効果により、みのわテラス全体の客数及び売上の増加を見込むことができるほか、地域の農畜産物の消費額を計るための産地直売品の売上額や関係人口など、数値化できる目標についてはKPI（重要業績評価指数）を次のとおり定め、この目標達成に向けて、道の駅の魅力を高める様々な取組を町と各施設が連携して計画・実践し、その成果を評価して運営内容の改善、新たな戦略の策定につなげていくものとします。

| 評価項目 | H30 | R3 | R6 | R8目標 | R10目標 | R12目標 |
|--------------------|--------|---------|---------|---------|---------|---------|
| みのわテラス 全体客数（人） | 57,469 | 112,338 | 151,076 | 166,000 | 201,000 | 243,000 |
| みのわテラス 全体売上（千円） | 83,909 | 239,416 | 278,920 | 294,000 | 326,000 | 359,000 |
| 産地直売品 売上（千円） | — | 42,020 | 59,710 | 66,000 | 78,000 | 90,000 |
| 関係人口（人） | — | — | — | 350 | 1,000 | 1,600 |